

平成30年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立峰山中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>【教育目標】 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ生徒の育成</p> <p>【めざす生徒像】 ・意欲を持って自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・進んで心と体を鍛える生徒</p> <p>【重点課題】 ・小中一貫教育の手法を用いた授業改善と学力の向上 ・豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止 ・学校業務の見直しと改善</p>	<p>【授業改善と学力の向上】 ○小中一貫教育の重点を「行動連携」から「授業づくり」にシフトし、どの教科においても、生徒同士をつなぎながら共に学びを深めるような手立てが組まれるようになってきている。 ○各種学力調査において、全国・府平均を上回る結果を出している。また、調査結果を分析し、その後の授業改善に生かされた。 【豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止】 ○△不登校生徒の出現率は1.4%と、昨年度より0.9ポイント改善した。しかし、家庭的状況が厳しく、不登校の解消には至っていない。今後も重要課題として取り組む必要がある。 ○「輝きの峰中集会」を持ち、生徒の良いところを全校に返し、前向きに取り組む雰囲気醸成できた。</p>	<p>【授業改善と学力の向上】 ・「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりを進める。 ・外部講師を招き校内授業研究会を活性化させる。 【豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止】 ・不登校解消に向け①管理職の教育相談部会への参加②心の教室相談員、S C、S S Wの教育相談部会への参加③迅速な校内ケース会議の開催)を継続する。 ・考え、議論する道徳の授業の研究を進める。 ・問題事象やいじめの早期発見・早期対応を組織的に進める。 【学校業務の見直しと改善】 ・校内でも「働き方改革」を進め、教職員の意識改革に継続して取り組む。 ・常に業務の見直しを行い、教職員の負担を減少させる。</p>			
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
教育課程 学習指導	<p>・言葉の力の育成を土台として「わかる」「できる」授業を小中一貫して研究する。 ・指導方法の工夫改善により学力量と学習意欲の向上を図る。</p>	<p>・①生徒が主体的に活動する場面が設定された授業②本時の目標が明確で「わかる」授業③多様な学習形態を取り入れた授業の研究を進める。 ・5・6年担任と教科教員が協働して総括テストを作成し、目標と指導と評価の一体化を進める。 ・各種テスト結果の分析に基づき、授業の在り方や補習・補充学習、小テストや繰り返し学習等の工夫を行う。 ・週末課題や日々の宿題の充実を図り、家庭学習充実の取組を保護者と連携して取り組む。 ・少人数、T T授業(英語)を効果的に実施する。</p>	<p>成果と課題(自己評価)</p> <p>○ペア学習、グループ学習が定着し、生徒の学び合いの場面が増え、そのことが学力の向上につながっている。</p> <p>○小学校5・6年生の学年部会に数学科教員が参加し、小中学校が一緒になって授業づくりを進められた。</p> <p>○少人数、T T追加の配置された英語科で、個に応じた指導が推進され、学習意欲の向上が見られる。また、英語科を柱に峰山高校との連携が進んだ。</p> <p>○週末課題の量が増え、生徒の負担が過重にならないよう、教科間の調整を図った。 △教科部会を充実させ、学力課題の大きい生徒を授業に巻き込み、生徒がより主体的に授業に臨めるよう毎時間の課題設定を工夫する。</p>		
本市の小中一貫教育の諸計画及び					

<p>各学園の重点等を基盤として</p>	<p>生徒指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態を早期に把握し不登校の解消と未然防止を図る。 ・生徒の内面に迫る指導を行い問題事象の減少を図る。 ・生徒の主體的な取組を進め自己肯定感を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の解消と未然防止に向け、教育相談部会やケース会議で、SCやSSWを活用しながら、具体的な方針を立て実践する。 ・問題事象の未然防止、規範意識の醸成のため、生徒とのふれあいの時間を確保し、毎週の生徒指導部会及び学年会で情報交流し全教職員で指導する。 ・全校集会・学年集会の実施や、生徒会活動において、生徒の主體的な活動を組織していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の規範意識が向上し、学校全体が落ち着いた状況にある。 ○SSW(スクールソーシャルワーカー：社会福祉士)の配置を受け、福祉の専門家からの見立てができた。カウンセリングで直接生徒に関わり、不登校の未然防止につながったケースもある。 △不登校に対応する組織体制は確立したが、結果として2学期から、特に2年生で新規不登校があった。今年度以上にSSWを活用すること、関係機関とのさらなる連携が必要である。
<p>健康(体育)・安全</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全意識の向上を図り、交通事故や学校事故の減少を図る。 ・保健教育を系統的進める。 ・部活動の充実と体力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全指導を徹底する。(交通教室、PTAとの連携) ・保健学習、保健指導を計画的に進める。また、道徳・総合的な学習・特別活動との関連を図る。 ・避難訓練(地震・火災・不審者侵入)を実施し安全意識を高める。 ・積極的に部活動に取り組みさせるための指導を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○交通事故が減少傾向である。(1月末9件→7件) ○計画通り3回の避難訓練を実施し、安全意識を高めることができた。 ○部活動の各種大会において好成績を収め、生徒に成就感を持たせることができた。駅伝大会・丹波ロ陸上大会でも、府大会、近畿大会、全国大会へと出場することができた。 	
<p>開かれた学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会モデル学園の研究指定を機に、地域や保護者との双方向の情報交換を活発に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、学校便り、学級便り等を用い、積極的に生徒の良い面を地域に発信する。 ・教育支援協議会、学校評議員会等、様々な機会を通じて、地域の方の学校教育への関心を高める。 ・ボランティア活動を通して地域貢献の意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○峰山学園ホットニュース(地域版)を全戸回覧し、小中一貫教育の周知を図った。 ○フェスタ飛天のボランティアに約140名の生徒が参加し、地域貢献できた。 △学園評価の評価項目を検討し、客観的評価を目指す。 	
<p>キャリア教育・進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を計画的に推進する。 ・積極的に自分の進路を切り開く生徒を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験活動を通して、望ましい職業観・勤労観を養う。 ・年間計画に基づいた系統的な進路指導を進める。 ・二者、三者面談を丁寧に持ち希望進路実現を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の方の協力を得て、職場体験や企業の方の講話を計画的に実施でき、生徒の生き方を考えさせる機会となった。立志式を丹後学のまともにも位置付けた。 △高校進学後3名の生徒が進路変更となり、中学校における進路指導の課題として受け止め、より丁寧に三者面談等を行った。 	
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①「主體的、対話的で深い学び」を目指す、特に主體的に学ばせるため、毎時間の導入での課題設定の仕方を研究していく。 ② 不登校の解消と未然防止を学校の重点課題と捉え、組織的な取組を継続させる。 ③「学園運営協議会(コミュニティー)」への移行を念頭に、「地域とともにある学校」づくりを進めていく。 ④「教職員の働き方改革」を常に意識し、様々な場面で業務改善を進めていく。 			

平成30年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立大宮中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
1	夢や希望を持って未来を切り拓く能力と実行力の育成	○教育活動全体を通して話し合い活動や討論活動を積極的に導入し、言語活動の充実に努めることができた。 ○人権教育をはじめ道徳教育や特別支援教育に重点を置いた校内研修を充実させることができた。 ○授業の生徒評価は、「わかりやすい」が27年度86%、28年度85%、29年度88%と継続して高い。また、総合的に見て「よい学校だ」と思うについても、27年度83%、28年度88%、29年度84%と高い数値で安定している。 △学力の定着・向上に向け、授業と連動させた家庭学習の取組や少人数授業を生かした授業改善の取組を推進していく。	本年度高い学力の育成 ・学びの基礎力の徹底と言語の力、討論活動の充実 進路指導の充実 ・三年間を見通した進路学習とキャリア教育の充実 生徒指導の充実と不登校生徒の未然防止、早期解決 ・規範意識の醸成と生徒指導の三機能の充実 心の教育の充実 ・自尊感情、人権尊重を培う教育の推進 指導力の向上 ・効果的な教育活動を目指した分掌間の連携強化 小中一貫教育の効率的な研究と実践		
2	学習意欲を高める授業の充実と家庭学習の定着				
3	健康な体と豊かな心の教育の充実				
4	信頼される学校づくり				
5	教職員の資質能力の向上				
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 小中の連続期(Ⅱ期)の指導方法の研究を通じた授業改善 客観的データを活用した課題分析と授業改善 「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」を育成する授業づくり 丹後学の研究と推進 家庭学習の習慣化に向けた取組の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校の教員による協同の授業研究と合同研修会を実施し、授業改善につなげる。 生徒指導の三機能を生かした授業づくりと学びの基礎力を徹底する。 各診断テストや学習状況を把握、分析し課題改善に向けた授業づくりと補充学習を充実させる。 授業スタイルを学園で共有し、授業づくりにつなげる。 全教科を通して「言語活用」カリキュラムを生かし、学びを深める授業づくりを行う。 「言語活用」カリキュラムを活用し、思考力、判断力、表現力を育成する。 地域社会の人々と連携し、自己の生き方、在り方について深く考えさせる。 1日1ページ学習と週末課題を提示する。 家庭学習頑張り週間を設定し、自主的に学習が進められるように家庭との連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中合同授業研では、授業づくりを「主体的・対話的で深い学び」「生徒指導の三機能を生かした授業改善」「言語活用カリキュラムを生かした授業」に視点をあて、発達段階に応じた研究を進めることができた。 ○データによる課題分析を授業改善や補充学習に生かすことで、基礎学力の定着と経年変化に伸びが見られた。 ○学園で取り組んでいる「言語活用」カリキュラムの活用が思考力・判断力・表現力を育成し、深い学びへと繋がってきている。 ○地域の人材を活用することで総合的な学習の時間における丹後学が充実した。 ○授業における生徒評価は、「わかりやすい」28年度85%、29年度89%、30年度88%と継続的に安定している。 △各学年、基礎学力に課題を要する生徒が約10%強、見受けられることから、家庭環境や発達上の課題等、様々な観点から生徒の困難性を捉え、より効果的な学習計画や支援を進めて行く必要がある。 		
<p>本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基礎として</p>					

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・小中の合同生徒指導部の開催 ・組織的な生徒指導体制の確立と規範意識の向上 ・学級経営の充実と好ましい人間関係の育成 ・不登校生徒の未然防止と早期対応、早期解決 ・定例の生徒指導部会で、いじめの状況把握と未然防止の徹底、人権感覚の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中合同部会により、各校の実践報告から学び合う。 ・毎週金曜日に生徒指導部会を開催するとともに、日々の情報共有を徹底する。 ・学校環境適応尺度診断(ASSSS)、生徒アンケートを活用し、相談活動を進める。 ・生徒指導部と合同で教育相談部会を開催し、特別支援教育部との連携を強化する。 ・いじめを見逃さず重大事案をまねかない組織的な指導体制の確立を図り、人権感覚と生徒との信頼関係の構築を図る。全校で、いじめゼロ宣言の取組を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中合同の生徒指導・人権教育部会を通して児童生徒の主体的な活動や保護者対応について、また、校内人権意見発表会や講演会、人権標語の取組を実施し、豊かな心を育成した。 ○生徒の自己有用感を培う取組を通して、生徒同士が「協力し合えた」H28 94%、H29 96%、H30 96%と高く評価している。 ○いじめ防止対策会議を定期開催し生徒の状況を把握し個別指導と集団指導に生かした。 △不登校生徒への組織的な対応と取組により、新規生徒の出現に一定歯止めがかかっているが、長期間に及ぶ生徒や保護者対応に努める。
健康(体育)・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・安全教育の充実 ・火災、津波、地震への知識の習得と避難訓練の実施 ・健康教育の充実 ・部活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や交通マナーなど登下校の安全を含め、安心安全な学校生活の在り方について指導し、生徒自らの安全意識を高める。(大宮こども園との合同避難訓練を実施) ・薬物、飲酒、喫煙の害について指導する。 ・異年齢集団で共通の興味関心や目的意識を持ち活動することの楽しさや喜びを体得させるため日々の部活動指導を大切にす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○園児との合同避難訓練を6年間継続し、安全意識の高揚や豊かな心の育成に努めた。 ○性に関する学習をはじめ健康被害について講師を招聘し、健全な生き方を考えさせた。 ○部活動では、「目標に向かって協力し楽しく活動できた」生徒が、H28 83%、H29 80%、H30 86%であり充実感に高まりが見られた。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・目的意識を高める指導の充実と希望進路の実現 ・学力の定着と向上 ・三年間を見通した系統的、計画的な指導の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験学習や地域の人材を生かした講話学習を実施し、生き方や在り方を考えさせる。 ・進路情報の収集と進路資料の活用を行う。 ・放課後の各種学習会の設定と家庭学習の定着を図る。 ・計画的に二者面談、三者面談を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の将来や特性を見つめて外部講師を招聘し望ましい職業観や勤労観について考えさせるとともに3年生では夢未来式を実施した。 ○学習指導部と連携を図り、自らの進路を主体的に考えさせることができた。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な取組の強化 ・個々の生徒の実態と教育的ニーズを把握した指導展開 ・特別支援教育についての理解と認識の深化 ・保護者及び関係機関との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターを核とし、学年団や各担任サポーター等との連携を強化する。 ・個別の指導計画や教育支援計画を定期的に加筆する。 ・定期的な教科部会とアセスメントを活用し、共通理解を図るとともに、個に応じた指導にあたる。 ・合理的配慮に関する教育内容を確立する。 ・保護者との共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コーディネーターを中心に組織的な取組が展開でき、特別支援教育の基盤作りができた。 ○発達障害の研修を通して、個に応じた適切な指導や支援の在り方について理解が深まった。 △小中一貫教育を通して情報の共有化と将来を見通した方策を共通理解していく必要があるととともに、関係機関との連携を密にしていく。(自立活動の充実)
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1 小中一貫教育の手法を校内分掌とし込み、組織的な学校運営の推進を図る。 2 教育活動全体を通して、言語活動の充実を図り、質の高い学力の育成に向けての研修を授業改善に生かす。 3 不登校生徒の未然防止と早期解決に向け、学校・家庭・関係機関との連携を強化し、組織的な支援体制の構築を図る。 4 生徒や保護者との深い信頼関係の構築に向けて、生徒と触れ合う時間の確保と組織的な生徒指導の充実・構築を図る。 		

平成30年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立網野中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進	<p>1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。</p> <p>2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。</p> <p>3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。</p> <p>4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。</p>	<p>○授業規律が確立でき、落ち着いた雰囲気の中で授業を進めることができた。</p> <p>○網野学園「これだけは」(授業編)で大切にしている「考えを交流する」場面での子ア学習・グループ学習を意識した授業が増えた。</p> <p>○生徒の自主性を伸ばすため、生徒会活動を中心に、ボランティア等で意欲を喚起し成果が見られた。</p> <p>△家庭学習充実の取組を行い意欲喚起を図ったが、取組期間中は成果が出たが、日常的な家庭学習が課題である。</p> <p>△不登校の未然防止や改善の取組を進めてきたが、家庭の状況の困難さ等もあり、大きく解消できたと云えない。</p>	<p>本年度重点指導合言葉を「より本気で本物の追求!」とし、全教育活動を1ランクアップ目指して推進する。</p> <p>1 確かな学力の向上</p> <p>(1)「主体的・対話的で深い学び」の授業を追求する。</p> <p>(2)生徒の考えを言語化させ、書かせたり、発表させたりする場面に計画的に授業に取り入れる。</p> <p>(3)学習法の指導を行い、生徒が学びを自分で進められる力をつけていく。</p> <p>2 豊かな人間性・社会性の育成 (道徳授業の重視)</p> <p>3 体力・耐性の育成</p> <p>(1)部活動・体育の授業を通して育成する。</p>	<p>本年度重点指導合言葉を「より本気で本物の追求!」とし、全教育活動を1ランクアップ目指して推進する。</p> <p>1 確かな学力の向上</p> <p>(1)「主体的・対話的で深い学び」の授業を追求する。</p> <p>(2)生徒の考えを言語化させ、書かせたり、発表させたりする場面に計画的に授業に取り入れる。</p> <p>(3)学習法の指導を行い、生徒が学びを自分で進められる力をつけていく。</p> <p>2 豊かな人間性・社会性の育成 (道徳授業の重視)</p> <p>3 体力・耐性の育成</p> <p>(1)部活動・体育の授業を通して育成する。</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
教育課程 学習指導	<p>・「主体的・対話的で深い学び」となる授業づくりを研究し、実践していく。</p> <p>・基礎基本の徹底及び活用する力をつける授業改善を行う。</p> <p>・家庭学習の方法を指導し、家庭の協力を得て、習慣化できる取組を実施する。</p>	<p>・校内研究会を実施し、どのような授業を行うことが「主体的・対話的で深い学び」となるのか、研修していく。</p> <p>・研修したことを実践し、実践の交流を進める。</p> <p>・活用する力は、基礎基本が大切であることを生徒にも自覚させ、日々の学習に、基礎と活用の両方を取り入れる。</p> <p>・基礎基本を徹底するための繰り返し学習を重視する。</p> <p>・家庭での学習方法を研究し指導を行い、生徒が意欲を持って家庭学習に取り組めるように実践する。</p> <p>・PTAの協力を得て、家庭学習の充実を図る。</p>	<p>○授業づくり・授業改善のための校内研究会を2カ月に1度開催し、事後研究会で研究・協議を行った。</p> <p>○京都府中学校教育研究会「教学研究大会」が本校で開催されることをチャンスと捉え、学習環境づくり・授業づくりの研修を大きく進めた。</p> <p>○ドリル学習を計画的に進め、確認テストを合格するまで実施することで、基本的な内容の定着が図れた。</p> <p>△「家庭学習ががんばり週間」(定期テスト前)は、一定の時間取り組めるが、日常的には、課題が残った。</p>		
生徒指導	<p>・生徒と教師の信頼関係の構築を図る。(指導の基本)</p> <p>・自己肯定感を醸成する。</p> <p>・不登校の未然防止及び解決を目指す。</p> <p>・いじめなどの人権侵害を未然に防止する。</p>	<p>・生徒が安心して、何でも相談できる教師との関係を大切にす。 (業間指導の充実や相談タイムの活用など)</p> <p>・自信を持たせる指導、達成感を感じさせる指導を行う。</p> <p>・本校の重要課題と位置付け、不登校問題に管理職が先頭に立ち、教育相談部と生徒指導部・学年部を連携させた取組で改善を目指す。</p> <p>・日常的な観察を重視し、サインを見逃さない指導実践。</p>	<p>○日常的に生徒の実態把握を行い、生徒との信頼関係を築くため、業間指導に全員で取り組みむことができた。</p> <p>○「挑戦すること」が自分の力を伸ばすことにつながることを様々な場面で語ることで、生徒の意欲向上につながった。大きな成果・結果も出た。(大会成績等)</p> <p>△不登校の未然防止を心がけていたが、2学期の中盤以降、新規の不登校生徒が増加した。</p>		

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・体力の向上を図る。 ・安全に対する意識の高揚と危機回避の力の育成を図る。 ・健康教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動及び体育の授業で、昨年度の体力テスト結果の分析に基づいた指導を重視して行い、バランスの取れた体力の向上を図る。 ・自分の命を守るための「危機回避」の意識と力を訓練及び指導を通して育成していく。 ・計画的な健康教育を通して、健全な成長のための生活について考えさせ、実践させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体育及び部活動で体力づくりを意識した指導を行い、筋力や持久力の伸びが見られた。（課題であった柔軟性も伸びつつある。） ○避難訓練や非行防止教室などで、危機から身を守ることにについて指導した結果、交通事故等、ほとんどなく過ごすことができた。 △健康教育・病氣予防について指導してきたが、インフルエンザの流行を防止することができなかった。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領にそった特別支援教育を実践する。 ・個々の発達課題を正確に把握し、指導計画に沿った指導を充実させる。 ・障害に対する理解教育を行い、いじめや人権侵害の未然防止及び「心の教育」を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「個別の指導計画」及び「教育支援計画」の作成が義務となつたことを機会に、計画をしっかりと立てて、保護者にも十分理解されるものとしていく。 ・発達課題についての教員研修を行い、教員が特性や障害に応じた適切な指導が実践できるよう取り組んでいく。 ・生徒が障害に対する理解を深め、2020年のパラリンピックなどを教材として、「人として障害を乗り越えて生きる」素晴らしさを感じさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「個別の指導計画」及び「教育支援計画」を作成し、個の課題に応じた指導を展開することができた。 ○障害のある生徒の特性を教職員で共通理解し、生徒の特性に十分配慮した指導を実施することで、学習意欲を大きく伸ばすことができた。 ○障害に対する理解教育を実施してきたことにより、特別支援学級の生徒や通級指導を受ける生徒に温かく接することができた。
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼され、応援していただける学校づくりを推進する。 ・保護者や教育応援会（支援協議会）のみならず、地域の様々な方々へ、公開・発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧に本校の学校教育について説明を行い、「学校経営方針」をご理解いただけるよう取り組む。 ・学校だよりやホームページ等様々な発信方法で、本校教育を知っていただくよう取り組む。 ・学校を地域も含め行事（合唱祭・体育祭・授業公開）等で公開して、生徒の頑張りや教師の取組を理解していただくよう努力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校だより」やPTA総会等で「学校経営方針」について丁寧に説明することで、本年度の方向性について、理解をいただくことができた。 ○学校評価アンケートで、学校が積極的に情報発信していること9割以上の方に評価していただいた。 ○行事ごとに多くの皆様にご参加いただき、高い評価をしていただいた。生徒の頑張りの陰にある教師の指導についての評価もたくさんいただいた。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒への指導方法及び未然防止の取組を進め、「不登校問題」を全教職員の力を合わせて改善する。 ・新学習指導要領の移行に関わり、学習指導の充実及び移行措置を確実に実施する。 ・SNSやインターネットの利用についての指導の充実を図り、被害者や加害者にならないための意識の醸成を図る。（講演会を実施する予定） ・日常的な家庭学習の定着に向けた指導を充実させ、基礎・基本の学力定着を図る。また、個に応じた家庭学習のあり方を考えさせる。 ・全ての教育活動を充実させるためにも、「学級経営」を安定させ、生徒が「この学級で友達と一緒に頑張ろう」と思える運営を行う。 		

平成30年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立丹後中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
開校5年目となる教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校経営を行う。生徒が「本気で本物に挑戦する」ための教育環境をつくり、自分の可能性に果敢に挑み力を伸ばすことに専念させる。	<ul style="list-style-type: none"> 「言語活動の充実」による思考力、判断力、表現力等の育成を図る。 「数学の指導の研究を重点教科として進める。」 「基礎学力の定着及び活用する力の育成を図る。」 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての教科に言語活動を取り入れるようにし、「ことばの力」を育成するための授業形態を工夫改善し実践する。 目標と指導と評価の一体化した取組を、「算数・数学」の指導を中心に進め、系統性のある一貫した授業づくりを研究する。 ねらいを持ったドリルや家庭学習課題を継続し行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度は、「本気で本物に挑戦する」を合言葉にして、落ち着いた学校生活に取り組みとともに、学習、部活動、様々な行事・取組で力を発揮した。校風も落ち着き、しっかりしたものとなってきた。さらに、自己肯定感や自己有用感を高め、学校生活に積極的に取り組む力をつけさせたい。 	丹後中学校開校5年目にあたり、個々の生徒が本物を目指し、生き生きと挑戦する学校にする～生徒と教職員が一丸となり、「本気で本物に挑戦する」を合言葉に進める～ ○生徒の可能性へ、様々な機会を捉えての挑戦を促す。 ○教育活動(学習・行事・取組等々)のねらいを明確にし、生徒が自覚して行動することで、本物を目指す。	
教育課程 学習指導			<ul style="list-style-type: none"> ○新学習指導要領の実施を控え、改訂のポイントや全面実施までの動き等の理解を深めた。また、幼稚園教育要領・保育所保育指針に記載された幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について研修も学園として行い理解を深めた。 ○年3回の小中学校授業公開を行い、コミュニケーション能力の育成を目指し「総合」・「英語」「外国語活動」の授業の研究ができた。また、「算数・数学」の系統表の作成等、研究成果を授業づくりに活かすことができた。 		
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 丹後学園のめざす子ども像の実現への取組を進める。 安心できる仲間関係を築かせる。 SNS等の使用について、実態把握による指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中のみならず業間指導を丁寧に行い、生徒の状況を把握すると同時に、生徒との信頼関係づくりを進める。 いじめ防止対策委員会を機能させ、いじめ調査の結果を基に組織的対応・指導に努める。 SNSや乗物等に係る「非行防止教室」を計画的に実施し、自他を大切に、正しく判断し行動する力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導の三機能(自己決定・自己存在感・共感的な人間関係)を生かす具体の指導について研修を行い、あらゆる教育活動の場で生徒に寄り添い、自己指導能力の育成につなげた。 ○生徒指導部会・教育相談部会を時間内に設定し、週ごとの指導の方向性を明らかにして教職員全員で指導にあたることができた。 ○いじめアンケート等を通して、状況把握とその指導を丁寧に行い、未然防止、早期対応につなげた。 		
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として					

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・体を鍛えることで、忍耐力などの心の強さも育てる。また、その力を学習にもつなげる。 ・安全な生活の仕方について、登下校及び学校生活の両面から指導を行う。 ・自分や周りの人の命を守る安全教育を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の指導を学校生活の向上につなげ、体育系・文化系部活動がかわらず、「辛いときこそ伸びるとき」を言葉に、豊かな心の育成を図る。 ・丹後小中一貫校PTA並びに本校PTAとの連携を強め、あいさつ運動や登下校指導を実施する。 ・生徒の安全安心な学校生活のために、常に危機意識を持ち指導にあたる。 ・ねらいをしつかりと持たせた避難訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな心と強い心を育てるために、どの部活動も生徒の心に響く指導に努めることができた。 ○大会や試合、発表や作品の作品展等、日々の頑張りを発表する場として、また、礼儀やマナーを学ばせる場として部活動の指導にあたることができた。 △さらに、生徒の安全安心な学校生活のために、危機意識を持って指導にあたる。 ○丹後子ども園との合同避難訓練は今後も継続し、自己肯定感を育む学習につなげる。
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域への学校公開や授業公開を計画的に行い、丹後中学校開校5年目の教育を理解していただく機会とする。 ・学校だよりの地域への回覧とともに、学校ホームページを最大限活用して生徒の様子や学園・学校の教育活動を発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入式等の儀式や合唱祭・学習発表会・部活動公開等、様々な教育活動の場面を多くの方に見ていただく機会を計画する。保護者の方だけでなく、「丹後学園教育応援会」との連携を活発にして、多くの方に見ていただき、ご意見や感想を今後の学校経営に活かす。 ・地域の取組に積極的に参加し、中学校の状況を伝えると同時に丹後小中一貫教育を広く発信していく。 ・足を運びやすい地域に開かれた学校づくりに努める。そのためにも、地域学校協働本部等を有効に活用し、支援ボランティアの方々の支援を積極的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校や学園の行事や取組は広く案内をし、学校での生徒の頑張りを見ていただくとともに、励ましていただくような環境づくりに努めることができた。また、「応援会」主催の子育て講演会の開催など、地域の教育力向上につながる連携が充実した。来年度も継続していきたい。 ○支援をいただくだけではなく、公民館事業や地域の行事や地域で発表する場には積極的に生徒が地域に出て、地域の中で地域の子どもとしてできる場を今後も作っていく。 △学校支援ボランティアの方々の支援を今後も継続して行っていただけというよう、学校に足を運びやすい学園・学校づくりに努める。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のそれぞれの特性についての理解を教職員間で共有し、特性にあった支援を全教育活動を通じて行う。 ・関係機関との連携を丁寧に行い、指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画や教育支援計画に沿って、個々の課題に応じた指導・支援を丹後小中一貫教育を通して行う。また、通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒についても適切な支援を実施する。 ・校内研や研修会などを通して指導の充実を図り、適切な支援により生徒の力の伸長を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の指導計画・教育支援計画に沿って、自立活動の視点を大切にしながら、個々の課題に応じた指導や支援を行うことができた。通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒についても、関係機関と連携を図りながら、共通理解のもと支援を行うことができた。 △さらに、支援の充実のための環境づくりと指導の充実が必要である。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・丹後学園小中一貫教育をさらに推進させ、学校改善の一つの手法として活かしていく。本校の授業改善に活かしていく。 ・学習と部活動の両輪で、豊かな学力と豊かな心の育成のために生徒指導の三機能を生かした指導力の向上に努める。 ・地域に開かれた学校づくりをさらに進める。 ・新学習指導要領にもとづいた教育課程づくりを進める。 		

平成30年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立弥栄中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>習得すべき内容を確実に身につけさせること。 また、人権意識を高め、周囲を思いやる豊かな心の育成をめざし、不安や悩みを解消する力を身につけさせ、希望の進路を実現する。</p>		<p>学習規律は、整然と保たれ、授業の展開ができてきたが、学習内容の理解が不十分であり、到達点までは至らない生徒もいるため自学自習の習慣を身に付けさせる課題がある。学年、学級の活動の活性化を図り、自尊感情の醸成に専念することである。</p>		<p>各学級のリーダーと協力者の育成を目指した教育活動を進める。(教職員で指導方向確認、共通理解) ・異年齢活動の活性化 ・生徒の特性を踏まえた指導の展開</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、学び得たことをもとに活用できる力を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何をどのように考え、どのようにまとめるとよいのか等考ええる視点や方法をわかりやすく示す。 ・考えたことを全体の場で発表し、自信をもたせる。(思考過程や課題解決のプロセスの記録や家庭学習の仕方を指導する。) 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年ともテーマに沿って調べ、考えたことを全体の場で発表し、自信をつけた。(心の文化発表会) ○級友同士が教え合いを通して、全員が学習課題に取り組み、目標を達成しようとする。 △家庭学習の時間が少なく、既習事項の定着に課題が見られた。自学自習の習慣化を図る必要がある。 		
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体でいじめ、不登校の未然防止、迅速且つ丁寧な対応を行う。 ・自己決定、自己の存在感、共感的な人間関係を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートや個別面談を実施し、指導方針をもとに生徒、保護者と不安の解消をめざす。(いじめ対策委員会の定例化) ・生徒指導の3機能を生かした授業を実施する。(自分の考えに気づかせ、仲間と協働し、互いの良さを認め合う) 	<ul style="list-style-type: none"> ○定例の会議を設定し、生徒や学級全体の経営状況を共有し、未然防止と早期対応に努めた。欠席が長期化するものが少なかった。 △目標が明確に見出せない生徒へのアプローチが必要と思える。生徒、保護者との良好な関係を構築していくことである。(小・中学校の丁寧な連携が必要である。) 		
健康(体育)・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のランニングで体を目覚めさせ、読書で集中力を高める。 ・偏食を無くし食生活を安定させ、部活動で心と体を鍛える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間厳守した学校生活を行うことにより家庭においても規則正しい生活を行う。 ・達成可能な目標を到達していくスモールステップとなるよう進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全校生徒が時間厳守し、朝のランニングを行い、健康な体作りにつながった。生徒会活動とタイアップした取り組みにより食育指導が継続できた。 △できたことに対して適切な評価を行い、生徒に自己有用感をもたせることや自主的な活動へと発展するよう指導する必要がある。 		

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全な教育環境を整える。(学校内外) ・報告、連絡、相談ができる良好な関係を保つ。 ・園小中との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所の点検、防犯、防災等の訓練の実施(交通安全、危機回避、自己判断の定着) ・生徒把握に徹すること、教職員のチームワーク、地域や関係機関等のネットワーク、迅速丁寧な対応していくフットワークを重視する。 	<p>○地域からの情報を基に交通安全の大切さを訴え、交通法規を遵守した通学ができた。徹底した下校指導により安全に登下校することを意識させた。</p> <p>○事象に対する早期対応や園や小学校との連携を図り、生徒指導に役立てた。</p> <p>△生徒自身で考え、危機回避する力を身に付けさせることが必要である。(情報機器の活用について)</p>
研修(資質向上の取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自立するための基盤づくりにより効果的な指導ができるよう校内研修を行い日々の指導に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の動向を見定め、生徒指導に生かすべき指導方法を学ぶ研修を計画する。(道徳、授業展開・評価、公務員としての服務規律等) 	<p>○校内での道徳の授業研の実施、具体的な評価の記載について研究協議を行った。その他、資質向上に向けて服務規律について、職員会議のなかで研修を実施し、執務に生かすことができた。</p> <p>△意欲につながる具体的な評価(記載する表現等)について研鑽を積んでいくことが大切である。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1 弥栄学園の指導の重点を授業研究、自尊感情の醸成とし、年間通して教育活動に専念する。 2 教師と生徒の良好な関係を構築し、学力向上をめざし、希望する進路を実現させる。 3 学校・園・家庭や地域社会と連携を図り、子どもの自立のために良好な教育環境づくりを行う。 		

平成30年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立久美浜中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>○規範意識の醸成を基盤とし、当たり前のことを「命」「今」「仲間」を大切にできる学校、「命」「今」「仲間」を大切にする学校を目指す。</p> <p>○久美浜学園小中一貫教育の利点を最大限に生かし、教職員間の共通理解を丁寧を図りながら系統的に実践を積み上げる。</p> <p>1 生徒の自尊感情を高め、好ましい人間関係を構築する。</p> <p>2 学力の充実・向上方を共有し、全教職員で実践を進める。</p> <p>◇学ぶ意欲の向上、基礎基本の徹底</p> <p>◇「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善、言語活動の充実</p> <p>3 「久美浜学園学校地域連携推進協議会」や「地域学校協働本部」等と連携し、新たな仕組みを機能化させ、地域とともにある学校づくりを目指す。</p>		<p>前年度の成果と課題</p> <p>○生徒と教師が、よりよい学校づくりを目指して協働で取り組み、相互の意識が高まった。</p> <p>○異年齢による教え合い学習を毎学期実施し、生徒の自己有用感が高まった。</p> <p>○生徒指導部会、教育相談部会、企画会議の定例化と情報共有により、組織的に課題解決できるようになった。</p> <p>○総合的な学習の時間において、地域調べ、立志式、職場体験学習、福祉体験学習を実施し、地域、保護者評価を得て、地域・保護者連携が進展した。</p> <p>○校内授業研究会を実施し、授業改善や実施意欲の向上につながった。</p> <p>○「情報機器の安全な取り扱い」に特化した授業・講演会を計画的に実施し、トラブルが減少している。</p> <p>△SNS等に多くの時間を費やし、家庭学習の時間確保ができていない生徒の割合が高い。各種テストにおいて全国・府平均を大きく下回っている。</p> <p>△特別な支援を必要とする生徒について、校内教育支援委員会を機能させた組織的な指導ができていない。</p>		<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p><久美浜学園> 指導の重点：学力向上</p> <p>○基礎基本の徹底 ○言語活動の充実</p> <p>○家庭学習時間の確保</p> <p>1 課題や具体的方策の明確化と進化管理</p> <p>(1) 課題</p> <p>ア 学ぶ意欲、規範意識の醸成</p> <p>イ 学力の充実・向上</p> <p>ウ 不登校の未然防止と解決</p> <p>(2) 指導の重点</p> <p>ア 徹底した実態把握と共通理解、組織的な課題解決</p> <p>イ 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の推進</p> <p>ウ 生徒指導の機能を生かした教育活動の推進</p> <p>2 開かれた学校づくり</p> <p>(1) 地域の特性を生かした総合的な学習の時間の充実</p> <p>(2) 地域や保護者への情報発信と地域学校協働活動の推進</p>	
<p>学校経営方針(中期経営目標)</p> <p>○規範意識の醸成を基盤とし、当たり前のことを「命」「今」「仲間」を大切にできる学校、「命」「今」「仲間」を大切にする学校を目指す。</p> <p>○久美浜学園小中一貫教育の利点を最大限に生かし、教職員間の共通理解を丁寧を図りながら系統的に実践を積み上げる。</p> <p>1 生徒の自尊感情を高め、好ましい人間関係を構築する。</p> <p>2 学力の充実・向上方を共有し、全教職員で実践を進める。</p> <p>◇学ぶ意欲の向上、基礎基本の徹底</p> <p>◇「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善、言語活動の充実</p> <p>3 「久美浜学園学校地域連携推進協議会」や「地域学校協働本部」等と連携し、新たな仕組みを機能化させ、地域とともにある学校づくりを目指す。</p>		<p>前年度の成果と課題</p> <p>○生徒と教師が、よりよい学校づくりを目指して協働で取り組み、相互の意識が高まった。</p> <p>○異年齢による教え合い学習を毎学期実施し、生徒の自己有用感が高まった。</p> <p>○生徒指導部会、教育相談部会、企画会議の定例化と情報共有により、組織的に課題解決できるようになった。</p> <p>○総合的な学習の時間において、地域調べ、立志式、職場体験学習、福祉体験学習を実施し、地域、保護者評価を得て、地域・保護者連携が進展した。</p> <p>○校内授業研究会を実施し、授業改善や実施意欲の向上につながった。</p> <p>○「情報機器の安全な取り扱い」に特化した授業・講演会を計画的に実施し、トラブルが減少している。</p> <p>△SNS等に多くの時間を費やし、家庭学習の時間確保ができていない生徒の割合が高い。各種テストにおいて全国・府平均を大きく下回っている。</p> <p>△特別な支援を必要とする生徒について、校内教育支援委員会を機能させた組織的な指導ができていない。</p>		<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p><久美浜学園> 指導の重点：学力向上</p> <p>○基礎基本の徹底 ○言語活動の充実</p> <p>○家庭学習時間の確保</p> <p>1 課題や具体的方策の明確化と進化管理</p> <p>(1) 課題</p> <p>ア 学ぶ意欲、規範意識の醸成</p> <p>イ 学力の充実・向上</p> <p>ウ 不登校の未然防止と解決</p> <p>(2) 指導の重点</p> <p>ア 徹底した実態把握と共通理解、組織的な課題解決</p> <p>イ 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の推進</p> <p>ウ 生徒指導の機能を生かした教育活動の推進</p> <p>2 開かれた学校づくり</p> <p>(1) 地域の特性を生かした総合的な学習の時間の充実</p> <p>(2) 地域や保護者への情報発信と地域学校協働活動の推進</p>	
<p>評価項目</p> <p>教育課程 学習指導</p>	<p>重点目標</p> <p>1 生徒や地域の特性を生かした教育課程の編成</p> <p>2 授業実践力の向上</p> <p>3 言語活動の充実</p> <p>4 家庭学習時間の確保</p>	<p>具体的方策</p> <p>◇丹後学の充実：1年地域調べ(京丹後・久美浜)、2年立志式、3年福祉体験(サロン活動、介護体験、提言)</p> <p>◇校内授業研(言語活動の充実、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業)、公開授業(道徳の時間、各教科)の実施</p> <p>◇授業における小グループを活用した言語活動の充実、久美中ドリルの工夫・改善</p> <p>◇中1ふりスタ・中2学力アップ講座の工夫、地域未来塾の充実</p> <p>◇生徒会の取組の充実(教え合い学習)</p>	<p>成果と課題(自己評価)</p> <p>○各学年のテーマを設定して丹後学を実施した。発表形態を工夫し学年・全校で発表した。</p> <p>○校内授業研究会を4回実施し、授業改善の視点及び実践課題の明確化、具体的な実践の共有を図った。</p> <p>○毎週木曜日の放課後学習、長期休業期間中の補充学習、日々のドリル学習で、学力補充の取組を充実した。</p> <p>○異年齢による教え合い学習を毎学期実施し、生徒の自己有用感も高まった。</p> <p>△「家庭学習がたっぷり週間」を学期1回設定した。本年度は生徒のメディアアイコントロール力の向上に努めたが、更に家庭学習の充実に力を入れる。</p>		

<p>画及び各学園の重点等を基盤として</p>	<p>生徒指導</p>	<p>1 人権教育・道徳教育、法やルールに関する教育の推進と規範意識の醸成 2 いじめの未然防止と解消 3 自己肯定感の高揚、共感的な人間関係の育成 4 不登校（不登校傾向生徒）の解消と未然防止 5 関係諸団体との連携強化</p>	<p>◇生徒とのふれ合い（業間も含む）、話しこみ ◇組織的対応、複数指導等による若手教員の育成 ◇徹底した事前指導：学校行事前、生徒会活動前 ◇「はあとほっとタイム」：学期1回以上 ◇「情報機器の安全な取扱い」の指導 久美浜学園小学生、中学生、P T A ◇主要部会の定例化（生徒指導（いじめ対策）、教育相談、特別活動）、「気づき」「今週の気になる生徒」の発行 ◇関係機関と連携した非行防止教室の実施 ◇麦わら、病院、SSWとの連携</p>	<p>健康（体育）・安全</p>	<p>1 部活動の充実と達成感の享受 2 緊急時対応訓練の充実 3 食育指導の充実 4 交通安全指導の徹底と健康教育の充実</p>	<p>◇緊急時対応訓練 6月：火災、11月：不審者、3月：地震 ◇公開授業：食育指導と保健指導との連携 ◇自転車（安全）指導、禁煙教育、生命のがん教育、薬物乱用防止教育、性に関する教育の充実</p>	<p>○学校行事及び生徒会活動（合唱祭、体育祭等）、日常的教育活動において生徒との対話を大切にし、生徒理解及び指導の充実に努めた。 ○問題事象等、早期発見・早期対応に努め、校務分掌を活用した複数対応により早期に解決を図った。若手教員の指導力の向上につながった。 ○「はあとほっとタイム」を随時給食の時間を活用して実施し、自己肯定感をさらに高めることのできた。 ○「情報機器の安全な取扱い」に関する講演会を小4児童、中学生、P T A対象に実施した。保護者の理解も年々深まり、生徒のトラブルも減少している。 △関係機関等と連携を図り、不登校の改善に努めたが、不登校の解消に課題が残る。</p>
<p>特別支援教育</p>	<p>1 校内体制の充実 2 障害のある生徒に対する個に応じた指導の充実</p>	<p>◇コーディネーターによる校内教育支援委員会の機能化 ◇特別支援教室構想に基づく支援 ◇実態把握：アセスメント票、個別の指導計画・支援計画 ◇個別データの蓄積：発達障害のある生徒、有効な手立て ◇担任並びに担当者と本人・保護者との丁寧な懇談 ◇連携強化：保護者、教師間（教科担当等）、関係諸機関（病院等）</p>	<p>○校内教育支援委員会を定期的に開催するなど、機能化が図れた。 ○特別な支援を要する生徒の授業中の実態を把握し生徒・保護者に丁寧に対応することで、授業及び学級経営等での配慮・支援に結びつけることのできた。 △関係諸機関との連携を強化し、支援の充実に努めた。</p>				
<p>開かれた学校づくり</p>	<p>1 信頼される学校づくり 2 双方方向の情報交流を活かした学校改善</p>	<p>◇保護者や地域に対する誠実・迅速・丁寧な対応 ◇たより、H P 等による情報発信（学校・久美浜学園） ◇学校地域連携推進協議会の機能化と地域学校協働活動の推進</p>	<p>○迅速、丁寧な対応により、保護者、地域から一定信頼を得られた。 ○学校だより、学園だより、H P の更新など、タイムリーな情報発信に努めた。 ○学校地域連携推進協議会を年3回開催し、情報交換、「久美浜を支える人づくり」について協議を行った。 地域・学園の取組に対する理解が深まった。</p>				
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<p>久美浜学園小中一貫教育により、指導観について共通理解を図り、系統的、組織的に実践を積み上げる。 ①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善による学力の充実・向上 ②好ましい人間関係の構築と自己肯定感・自己有用感の向上 ③不登校の未然防止と不登校（傾向）生徒の改善</p>						